



新說明清合戰記

共五

^13  
4433  
2





新説明清合戦記卷之二

第三回 東花壇明末の正統を尋る事

却説東花壇をわたりひのまうふ猛赤風をうらとりて自他  
のうらみをとろしふらまば衆人ふか冊らきて軍門  
大城のまねとありいよくその身の行状をいへば  
かこめて民を接育し軍令をたよりたりし士率の  
遠退一致して防禦のそあくおこつて進むの知  
縣知府がよせむと志をく懸ちて威を福建ふ  
あふふふを率いまご破れふもあふぬ東通女を備  
稀ある切ありと毒の人こそつて勢欲せざるはあり

けり。故あるる東花懐と。方氏が操隊不整濟して。感得しぬる女子あまは母常の少女不わく。是を國姓爺が母の怨魂と。ひきここの土をたぎて。方氏の胎を切りの毒。再び出て還生を果せし。貞女の後身たるは。丁そ。女丈夫ともいさる。あつめ。さる。東花懐あり。方氏の塗炭を救はん。あふ。奸ぞく。亂士を誅せし。とも。無名の軍を起して。及。逆の汚名をうかむ。つひに助力をうか。あらん。快。清朝六世の聖主。乾隆帝。あさ。あさ。仁政を布て。より。翁。氏。敏。順。の色。と。た。を。と。も。あ。

化せざるところあり。开は。め。難。夷。ふ。か。り。て。国。を。救。済。つ。る。あ。ふ。懐。その。猛。威。不。休。一。志。の。と。徳。不。あ。ん。き。の。あ。う。ね。バ。迫。ご。ろ。莫。吉。利。不。あ。び。や。り。さ。ま。て。国。の。恥。辱。を。う。け。し。より。朝。威。日。く。ふ。お。と。り。て。国。人。を。お。く。ら。る。あり。こ。ろ。ふ。い。り。て。先。朝。大。明。の。徳。澤。を。作。り。の。ま。を。を。し。て。免。れ。て。毒。不。多。う。ん。女。あ。相。應。し。う。ぬ。う。る。大。志。を。ら。と。ら。う。の。あ。を。色。朱。氏の。血。統。不。徳。ある。人。を。か。し。冊。て。明。末。を。再。興。あ。し。名。を。忠。孝。不。と。む。べ。い。と。あ。り。こ。ろ。と。人。ふ。つ。げ。あ。う。し。て。朱。氏。の。末。を。あ。ま。ね。く。ら。ぬ。め。

むる不こどあんふせん、湖南ま省ま、麻姑山まのふりことありて、南なん江こう府ふの  
りこ不ふとりふ、朱しゆ鳥うとつふふ、少せう年ねんあり、明めいの福ふく王わうのら居く  
亂らんふふどもひ農のう民せう不ふ零ぜい落らくして、代だいくこのところ不ふ耕かう  
りのうう、家かままづづくくありて、下げ田でんも持もち、俗よ不ふあ  
のと百ひゃく姓せいありふ、朱しゆ鳥うが父ちちの代よ不ふりて、上うへへた奪あ  
りて下しもたりてむ苛か政せいとりくく不ふいわやまけきば、貧まん  
しらうふ又またままづづくく汗あせ不ふ田でん圃ぼをあめくままを  
不ふ親おや子こひひくく骨ほねをらざた牙をを終不ふしても果あち  
ありりのと、秋あき不ふままのとせうくく秋あきを秋きて、朱しゆ鳥うと  
ままづづ總わが角まきよりひ、益ひとと耕かうして、秋あき不ふめめりり、表よとと湖うみ不ふ

漁い獲として、その穀こ魚ぎよを售いさうりの、獲あを得ても秋あきを  
中なくあふふ、孝かう人じん、王わう、祥せう、孟めい、宗そう、不ふをとて、農のう、舜しん、不ふとと不ふ  
くくむむ、且かつ書しよをあのこてて古こ人じんをあいひて、聰そう、明めい、魯ろ、智ち  
凡おんあらうう、徳とく、行かうままとと不ふ隣りんを照くく、一い、縣けん、吏りももここを  
をあるるとといいつつども、朱しゆ氏しの末まつ葉えありり、わわ不ふ、孝かうとと廉れん  
賞かうせぬぬのとうう、却くわくててその徳とくを勝めり、わわ不ふ、若わ、若わ、光かう  
の玉いいつつづづくく不ふ、ううづづめめれて、泥でい中ちゆうの、蓮れんとと人ひととと人ひととと賞かう  
せせるるよよ、東とう、苑えん、壞くわいつつとと笑わらひひて、この人ひと、了りょうととわわりり不ふ  
けけままば、ままづづくくわわららくくわわりり、わわりりわわききて、宴えん、源げんをうりり  
んんとと、わわりりわわりり、北きた京きやうよりり、官くわん、軍ぐん、其そのの勢せい、不ふ



朱鳥来るは  
 ぐうしてを物小  
 善味の合を  
 まつる



明え  
 朱鳥の  
 善味小は  
 まつる  
 目

朱鳥  
 まつる



朱鳥の父  
 まつる

二ノ三

除騎おしよせ来るようしゆえりくばこさびの合戦こ  
そつわまうらね船方の興廢このとたありと東花  
壇と二万除騎の甲兵を引率して開青坡玉張  
せり。ゆりゆりど小官軍ハ福遠ちくおしよせつ。  
このようしゆゆりも遠毘石嵐蛇とちどめゆり。  
運送の張本と長の志まうらふ少女とおひひむらり  
て。ひと揉小攻つぶさんと長途のつりまむとをばふ  
井がま士率を引率して福州開青坡つをせむらひ  
兩陣間ちくく旗をまむめて。魚鱗ふとあゝ蘇波を  
つらりてたがひ不獲煩をはるべをあてた敵もこうこ

もたちところふ。瘡おひ死人うむをまうら。かくてら  
果トと梅福王と士率をさう免て東花壇と陣  
ちくくちくちくせて。雨あらしのふるごう。急流とうち  
箭をもちあてども。東花壇の隊のめいなるふく。得  
槍をりてうけとめく。おるうと流武者ありけまは  
尖劍をそろく。陰ふをまをつらりて。躬りこの勢  
あら羊をたつる。敵の大軍中一殺入して。あ  
ひらるの獲を突き。あるひらひら。頸を斬つけ  
まは。こまか。ふんふねおとさま。又と激らま。つ  
ふく。あ。ら。ら。ら。と。あ。ぎ。作。ら。う。ち。ま。ま。の。猛。勢。あ。ら。

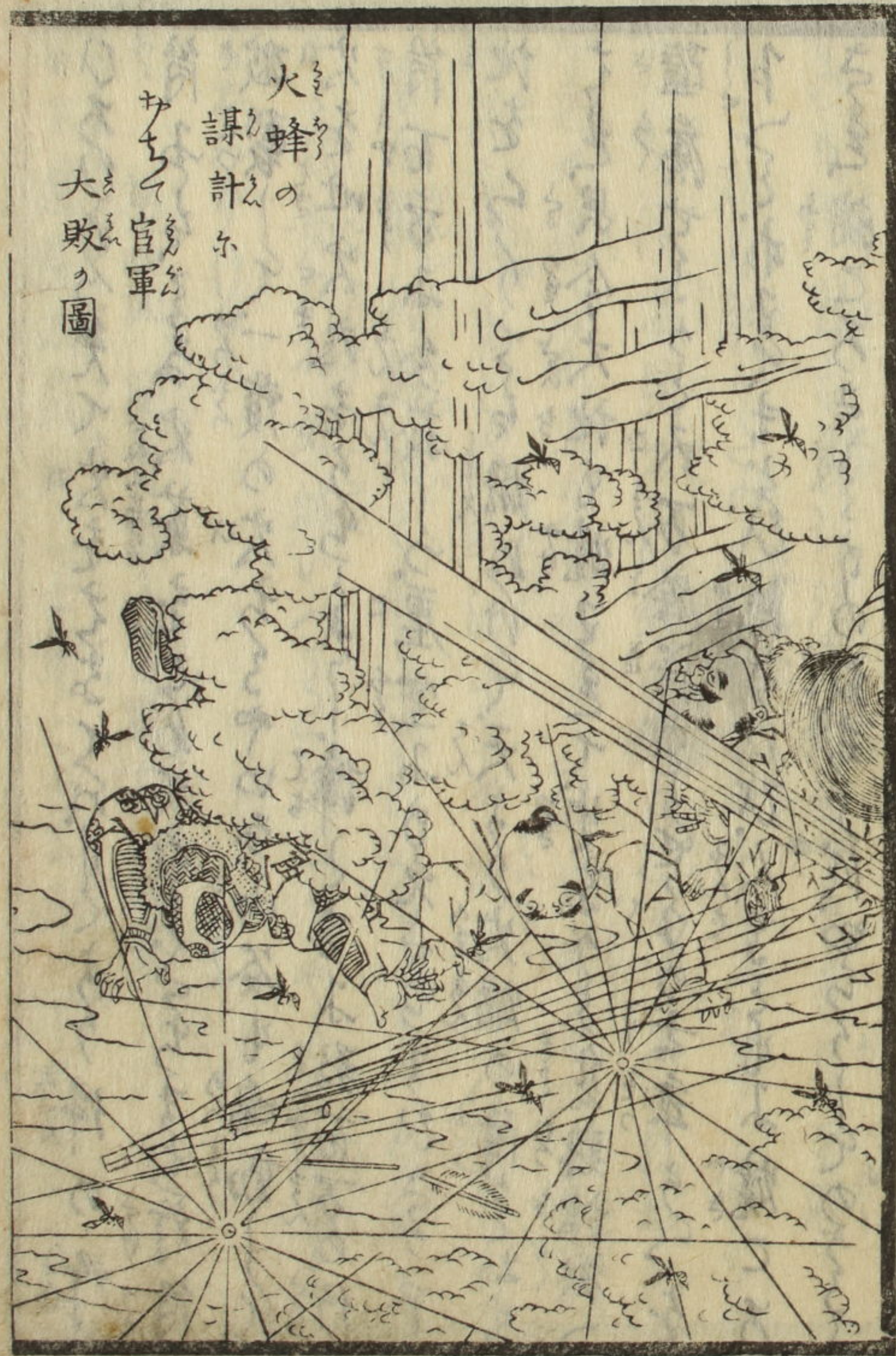
てぐさうらるゝをよせよとあひしは怯るゝが。多  
勢をこのよき氣をたげし。撃つゝこのつ脱し  
して。鬪ひしけあをたかりけは。互ふつりまを  
やまめんと相引ふして陣をうごめ。兵糧をそ  
つうひらるゝ。ひて東花壇ららふうとめらるゝ。  
竹筒を救十萬きうせして。そ切口へ密とぬり。敵  
さうさうと。陣つけて。陣中へひて。未てあり。その  
敵のまうと。来る。路のうごさう。殺町の間へ。ごん  
の竹筒をつまおきて。あらる。朝まごたより。敵陣  
ちうくおしよと。寄る。敵の陣もさうさうさう

とまうと西洋砲をうち合して。志をうくいとみ。敵  
不とに東花壇の陣中いらめきうるをよせよと  
は。つりと機ふのつて。とらとあめだてのみ。と  
ま。東氏の隊勢うごさう。ひて。先陣とあまら  
吹らぐさきつひ。後陣へあごさう。とて。あらら  
ま。とあり引く。せよ。よせよ。の。お率。八万余。勢  
つれら。ち。と。んと。先と。あ。ら。その。ひ。隊。伍。を。さ。う。ご  
して。逐う。け。ま。と。も。東。花。壇。の。隊。の。り。の。ハ。逃  
あ。ぐ。も。列。を。さ。う。ご。さ。げ。ら。う。ら。不。せ。ま。る。官。軍  
ら。敵。不。し。や。りの。竹。筒。を。獲。り。さ。う。さ。う。地。へ。ま。ま

ども。豫計<sup>えうけい</sup>をたてしるもつりだ。おたりし小<sup>こ</sup>逐<sup>お</sup>す<sup>か</sup>  
 火<sup>か</sup>急<sup>きゅう</sup>あり。時<sup>とき</sup>分<sup>ぶん</sup>をよと東<sup>とう</sup>花<sup>か</sup>壇<sup>だん</sup>ハおとす。小<sup>こ</sup>  
 引<sup>ひ</sup>し去<sup>さ</sup>西洋<sup>せいやう</sup>砲<sup>ぱう</sup>を。追<sup>お</sup>く<sup>か</sup>る<sup>る</sup>勢<sup>いき</sup>ありむけて。空<sup>くう</sup>砲<sup>ぱう</sup>  
 さらしとちあちつる。管<sup>ひび</sup>不<sup>ふ</sup>及<sup>じつ</sup>路<sup>ろ</sup>つとまきし。竹<sup>たけ</sup>筒<sup>つつ</sup>  
 ありし散<sup>さん</sup>乱<sup>らん</sup>し。討<sup>う</sup>て<sup>た</sup>る<sup>る</sup>の士<sup>し</sup>率<sup>そつ</sup>をさぐらぬ。或<sup>ある</sup>ハ  
 法<sup>はふ</sup>まづき。あつちまづりて。作<sup>さ</sup>る<sup>る</sup>らうし。小<sup>こ</sup>又<sup>また</sup>まらる<sup>る</sup>ふ。  
 相<sup>あ</sup>擇<sup>たく</sup>おる<sup>る</sup>こあうさきども。後<sup>ご</sup>陣<sup>じん</sup>のりめい。まを  
 ありね。勢<sup>いき</sup>ひこんで。かしくる。ちどし。ありむ。  
 兵<sup>へい</sup>等<sup>どう</sup>が。踏<sup>ふ</sup>ありけ。とを。竹<sup>たけ</sup>筒<sup>つつ</sup>より。殺<sup>ころ</sup>す<sup>す</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>様<sup>よう</sup>  
 おこり立<sup>たち</sup>人<sup>ひと</sup>る。た。小<sup>こ</sup>船<sup>ふね</sup>を。毒<sup>どく</sup>痛<sup>つう</sup>を。さる<sup>る</sup>こと。おる

う。あうぬ。このてい。さうくと。あうと。い。ども。東<sup>とう</sup>花<sup>か</sup>  
 壇<sup>だん</sup>を。引<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>。さ。は。只<sup>ただ</sup>あつ<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>。と。あり。ぞく。を。討<sup>う</sup>て<sup>た</sup>  
 ち。さ。う。ふ。こ。ま。を。見<sup>み</sup>て。追<sup>お</sup>く<sup>く</sup>。ま。ま。竹<sup>たけ</sup>筒<sup>つつ</sup>を。さ。り。様<sup>よう</sup>  
 小<sup>こ</sup>さ。う。う。う。う。う。さ。ふ。先<sup>さき</sup>鋒<sup>ほう</sup>の士<sup>し</sup>率<sup>そつ</sup>を。さ。り。様<sup>よう</sup>  
 達<sup>たつ</sup>毘<sup>び</sup>の。う。う。ち。て。渡<sup>わ</sup>す<sup>す</sup>。た。款<sup>てき</sup>の。え。う。り。さ。の。こ  
 お。さ。う。う。う。う。あ。あ。逃<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>。と。め。き。送<sup>きやう</sup>送<sup>と</sup>木<sup>も</sup>を。今<sup>いま</sup>も  
 ども。あ。ま。様<sup>よう</sup>。ひ。そ。ま。ま。竹<sup>たけ</sup>筒<sup>つつ</sup>の。麓<sup>ふもと</sup>を。お。り。う。う。  
 ま。し。細<sup>こ</sup>き。た。く。み。の。竹<sup>たけ</sup>筒<sup>つつ</sup>を。う。た。あ。つ。め。て。焼<sup>や</sup>き<sup>き</sup>ま。す。  
 ち。下<sup>した</sup>知<sup>ち</sup>ふ。ま。さ。う。新<sup>しん</sup>人<sup>じん</sup>を。さ。り。様<sup>よう</sup>。散<sup>さん</sup>乱<sup>らん</sup>し。う。竹<sup>たけ</sup>筒<sup>つつ</sup>を。





ひろひあつて火をたふてべりこより件の行  
背あつた。こゝろ火菜をこめてあり。こゝろまは行背  
破裂して一獲の火あつたやいな。山谷も鳴動して  
火を吐火丸をうちまう。障とて不殺百万の竹  
背百方ふか散一つ。虚空ふりえ。こゝろまひさぐ。地  
地をらりて。燃ゆけて。天より火焔の降く。おれ  
こゝろ。只今大地も焼く。こゝろまは。焦熱地獄へ  
墮落せり。こゝろまは。除務のよせ。ちの士率うへを  
下つて。おれまどひ。泣きけび。人々とも不焼。こゝろ  
まは。踏ころさる。こゝろの殺。あつた。ゆらう。こゝろまは。

ののも。甲胃と其ち。能をやき。足を履。一。  
あつた。ひら。新。この。劔。不。麻。を。う。ま。む。り。も。ま。く。  
ま。う。り。は。遠。鬼。不。鹿。乳。の。両。大。ね。も。う。ま。ね。お。と。  
さ。ま。て。産。ご。ち。ふ。あ。り。あ。つ。つ。も。火。中。を。の。ぐ。ま。出。て。  
残。兵。を。引。ま。と。め。漸。に。さ。う。て。級。北。を。及。の。ゆ。て。お。  
一。隊。の。軍。兵。突。然。と。あ。つ。つ。ま。い。り。ま。す。つ。さ。だ。お。  
ま。む。女。大。ね。奸。賊。い。づ。こ。み。ら。る。や。と。声。を。あ。お。  
よ。も。つ。り。け。し。

第四回 崩青坡不官軍大敵の事  
當下遠鬼不鹿乳と士率とて不焼天へゆくこと

さきぎつる敵軍を。と見え。こゝを。東花隈。あり。うれ。の  
嚮ふ。い。つ。つ。逐。ま。て。た。る。う。ふ。逃。の。び。と。お。ひ。し。が。  
い。づ。く。あ。ら。間。た。わ。り。て。こ。の。と。ろ。ろ。つ。ら。出。来。し。あ。ら。ん。  
そ。ら。と。も。あ。ま。火。障。の。こ。わ。ふ。疲。勞。し。殘。兵。と。り。て  
う。ま。ふ。あ。つ。つ。ば。塵。ふ。あ。り。ぬ。づ。し。と。思。ふ。り。の。う。ら  
逃。ま。あ。ま。し。お。と。ら。い。う。ふ。と。見。う。つ。ま。ば。う。の。行  
背。の。火。と。ま。き。え。て。除。煙。ち。う。く。の。わ。る。の。ま。か。く。て。い  
命。救。ま。ご。あ。り。と。よ。ろ。ろ。こ。ふ。達。毘。石。嵐。虬。の。隈。と。め。ぐ  
ら。し。隊。勢。を。う。れ。の。け。方。僅。火。攻。せ。う。ま。て。つ。る。一。度  
焚。揚。さ。し。て。あ。げ。さ。う。ま。ば。士。卒。も。た。ふ。息。と。う。ら

し。つ。足。ふ。ま。う。し。く。逐。由。く。と。ま。き。こ。あ。し。く。せ。と。よ。う。を  
つ。り。く。逐。う。け。る。東。花。隈。の。ま。ら。と。波。足。の。り。人。と  
達。者。隊。の。り。の。ふ。さ。た。ご。ら。て。間。を。ぐ。う。ふ。追。せ。し  
ま。ば。北。系。勢。い。よ。く。お。そ。ま。て。魂。も。身。も。そ。ら。た。  
咽喉。枯。涸。わ。し。勞。て。進。退。こ。う。ふ。き。り。ま。り。く。る。お  
く。ら。ま。ら。う。向。ひ。よ。り。と。あ。さ。と。さ。し。て。ま。ら。し。ら。う。ふ  
務。る。武。者。一。務。を。し。ま。さ。る。そ。の。あ。り。し。よ。り。急。ふ。る。二  
匹。と。も。ふ。し。し。し。砂。石。を。と。ろ。ろ。ま。て。く。ひ。ま。ふ。進。つ。く  
と。と。見。ま。ば。石。嵐。虬。が。隊。の。り。の。ふ。万。丈。無。當。と。い。え  
ま。て。つ。る。山。東。の。呂。醜。あ。り。こ。の。り。の。嚮。ふ。い。ち。を。あ。げ。火。を

の谷をてりてこころあふ。深谷小舟と避つ。そのあづまると  
後不どにらふとまれし。躬うこのるの火小おどろきつ  
躍あがりて。おやまらてこの谷底へ。幾匹ともあく。墮  
るふぞ。巖石小皮肉を傷。又あるひの足をうち。折き  
て。羊死。羊生。ある沖小。急あき。三匹あり。天のこま  
けと。良醜とよろこび。一匹小まづ。踏て。二匹をそのあり  
つ。小はあき。御火。葉のえつ。て。あづまり。より  
谷を。出つ。あふ。つ。れ。くも。大おの。おと。あ。て。ま  
つ。よう。所。より。両。お。あ。ひ。よ。より。こ。び。お。の。く。る。と  
突。より。つ。ま。わ。く。も。弛。喉。と。の。る。不。ど。に。い。よ。く。近。づ。く

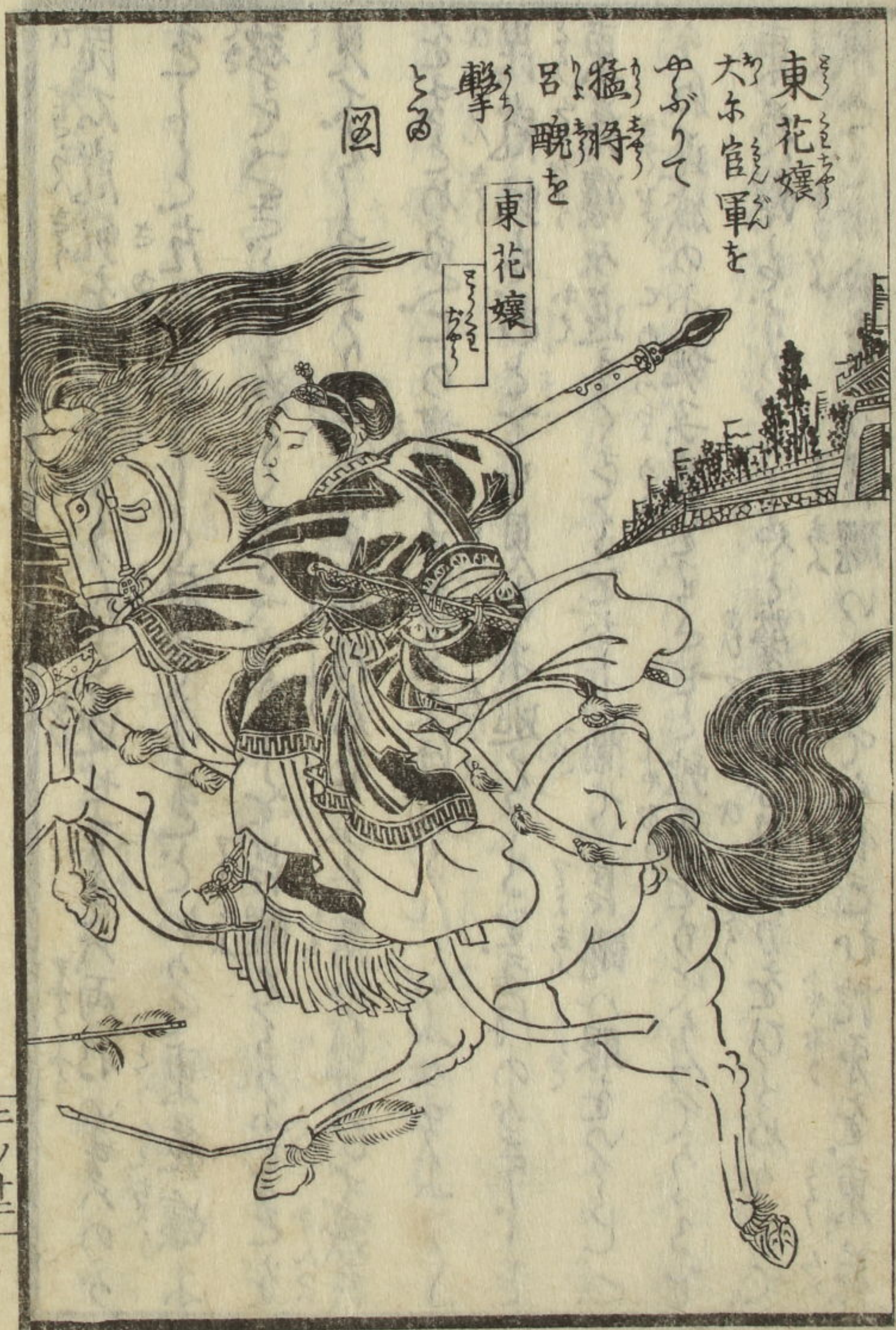
東花嬢と。脩羅戦争の。場。不。あり。ても。菩。薩。小。ひ。く。た  
英人の。よ。そ。と。ひ。嫁。婿。と。る。花。の。款。細。織。と。る。柳。の。腰。  
の。り。鞆。の。さ。う。小。舟。と。ま。て。て。綿。繡。の。花。絶。を。ま。と。ひ。  
黒。天。鷲。織。小。舟。奉。り。の。令。系。を。り。て。應。龍。を  
繡。と。る。包。様。を。願。ふ。い。て。ま。き。こ。ど。り。烏。髪。を。大。ひ  
ふ。こ。ぎ。ひ。て。た。ま。小。榮。統。の。眉。尖。刀。を。と。ら。さ。た。ま。と  
さ。う。く。さ。の。む。り。て。逃。る。村。と。ま。ね。き。つ。り。い  
ま。小。民。を。あ。く。さ。げ。貪。色。と。も。わ。く。と。あ。く。ぬ。奸。賊。と。も  
を。強。伏。し。て。あ。ま。ね。く。庶。民。の。塗。炭。を。ま。く。ひ。天。小。と。り。て  
道。を。行。ふ。東。花。嬢。と。ら。つ。と。あり。海。ら。先。龍。を。悔。あ。ら

とめて降参あさる令とてまけん逢ひをとりてあ  
がひくうと後ともふこの用青坡の土塊とありてら  
まどと大ひ小罫りもろくむまが両大おび良醜  
さくさくさくお怒りおとさりけん一あさるむふら  
のこさき一士率をまとめて引くをわどしむわむ  
東花壇が隊のみの一万ふ子勝務大おおられたと  
きそひ近づく勇士猛率どろとおめきて吹さきま  
さくぬぐふ陣ふあやま火小焼をさる残兵ども  
まくくさんぐお放ゆしとくさるの敷ふ人多く  
アヤあかと東花壇旋風のさくくるとをくらを大お達

鬼石丸をうらととんと逐せまきバ両おひまのガ  
まくと方おひとく替てりまどいり東花壇小  
敷まづきあまやうとてべりしと良醜をさるふこ色を  
見てをより声うけて両お志をさる落のひあひて残兵  
をまとめぬこの場はまきとらけとんとひがまふく  
鬼丸丸おおととも目おお逃をさるとる月のがさどと  
東花壇が退まきまるとお一隔て良醜ハ眼をのけしつ  
うぬ逢城の小妮子首をさせと蛇牙をのけうけうと  
東花壇とりのくくやと榮統の眉尖刀をひくめりて  
敷ふと十合をうり良醜いつつてうちこむ蛇牙を東花



呂  
醜  
呂  
醜



東  
花  
孃  
大  
官  
軍  
を  
中  
あ  
り  
て  
猛  
將  
呂  
醜  
を  
撃  
つ  
と  
る  
図

東  
花  
孃  
東  
花  
孃

嬢ぢやうのりのりのともともせせはは眉まゆ尖せん刀とうの柄えいふふううけけととめめつつ急きうふふささんんで  
腰こしのつつぐぐひひををたたららううままごごんんとと次つぎををまませせばばささままのの長なが醜みにくも  
るる上うへよりより權ごんとと落おちるるとと衆しゆ人じんををううががおおききてて首くびををおおききけけり  
ささるるややどど小せう達たつ毘び不ふ氣き軌ぎとと款けんのの魁けい首しゆをを長なが醜みにくふふささり  
ししてて殘ざん兵へいととめめららとともも小せう命めいををううだだりり放はなををままむむりりより  
又また嚮かうのの不ふどどととららふふげげ一ひと隊たいのの人じんをを猛もう然ぜんととおおし  
いいででてて真まささたたふふささむむ大だいおおととここをを又また東とう花け嬢ぢやうあり  
けけりりババここををととららうう官くわん軍ぐんのの前ぜん後ごのの東とう花け嬢ぢやう不ふ氣きを  
ららいいああひひああつつてて戦せんふふりりののももたたくく右みぎ洗せんたた洗せん不ふ及きととせせりりととめめて  
峻けん山さん幽ゆう谷こくののいいととひひれれくく只ただ協ぎょうのの雜ざつををちちららままぐぐととくく首くびを

おおささてて逆さかままぐぐふふかかりり一ひとららどど不ふ付つのの猛もう不ふ醜みにくををううち  
ととりりてて東とう花け嬢ぢやうとと士し率そつととたたふふいいききららひひままるるととくく直ち進しん不  
ちちりりととままああつつてていいまま達たつ毘びををおおひひままららるる東とう花け嬢ぢやうとと一ひと隊たい不  
ありあり兩りゆう個ご一ひと對たいのの東とう花け嬢ぢやうのの弱じやくこのこの勇ゆう兵へいををかかりりままてて  
息いきととももららはは官くわん軍ぐんをを逐おふふとと火か意いありありははままばばりりち  
ららるる士し率そつ殺ころふふ人じんをを捕とら殺ころ百ひゃく人にん不ふおおよよびびたりたり副ふく將せう不ふ氣き  
軌ぎとと亂らん軍ぐんののあありり不ふ戰せん没ぼつ一ひと大だいおお達たつ毘びのの瘡かさをを負おつつも  
卒そつとと免めん窮きゆうををままぬぬりりととくく殘ざん兵へいををううちちままるるととくくままるるととくくままるる  
ももああるるととくくとと北きた系けいささううてて帰かへるるののりりととくく有あ殺ころ不ふ世  
間けんををぐぐりりととてて街まち及およびびととららりりとと山やま路ぢををここししてて行ゆく

るどに、山城やまぎふりこまきこて、威兵具きへいぐをたぎらうとせしむるべ  
らむとす。其の志こころも亦またたごりて、北条きたじょうへつり来つるを、世の  
ものころひふありふり、かくて東花壇とうけだんへおひのまきに  
おひの太軍たいぐんとらちぬり、用青坡ようせいばより凱陣かいてんして、士卒しそふ  
凱陣かいてんの賞しょうをわさといふく、庶民しよじんをわづらひ、さきこ東  
花壇とうけだんへおひてより、こが侍女しやうにょふ、文学ぶんがく武藝ぶげいをまづらひ、か  
え徐じよをみぞ、并ならが中なかつふとまふ、知ちつる、少女せうにょを擇えらむと、こが  
このの、教しやう者むしやとてあり、ふより、用青坡ようせいばの合戦がくせんふ  
聖朝せいぢょう敵陣てきぢんへむらひ、ふをみるは、是教こゝろ者むしや之の火攻ひがくの后のち放  
を、志こころ、敵てきの前まへをさきぎり、ふをまき、この東花壇とうけだんあり。

めらる、孫そん計けいあるをりて、官軍くわんぐん八百八千やうぱちせん、除勝よきのおも、士卒しそ  
も、友ともをり、あひて、大敵たいてき、志こころも、あつ、あつ、うま、さき、ま、この一  
戦せんふ、東花壇とうけだんが、英名えいめいの、よう、裏うらきて、威いを、遠とほく、近ちかく、あつ、ひ  
けり。





